

緊急講演会「放射能を正しく恐れる」

質疑応答

(●：会場からの質問 ○：講演者等の回答 □：会場からの情報提供)

- 海産物への放射線の影響については、どうなっているのか？
 - 海への影響については、今後の調査に待たなければならないこともあろうと思う。
 - 文科省、水産庁、東京電力等の HP に参考となる調査データが載っている。

海産生物について、水産研究所では調査してきている。結果的には、魚に関する濃縮係数は概ね 100 以下である。食物連鎖で濃縮するなどよく言われるが、魚が放射性物質を摂取しても排出し、一定の濃度で平衡に達する。

海底土に関しては、核実験の影響の研究が行われてきた。セシウムは海底土によく付着するので、有機物沈殿の場合を除き、実験では、再び海水に回帰することは殆ど無い。

- こどもへの影響について、冷戦期の核実験の頃のリスクと比べてどうなのか？
 - 核実験による影響については、国連科学委員会が調査したデータがある。小児がんが増えたとか、胎児の死亡が多かったという書籍への科学的なエビデンスにはならないというのが、学術的な結論になっている。

- 線量だけでなく、ラドンのアルファ線のように種類によって違ってくるのではないか。
 - ラドンはアルファ線を出し、20 倍の悪影響を及ぼすと言われている。しかし、ラドン温泉を活用した研究所では、結果的に悪影響は出ておらず、むしろ好影響が出ているということで、治療に役立っている。
 - アルファ線の場合は、シーベルトという線量にするために、グレイ値を 20 倍に換算している。

- LNT 仮説に関し、疫学的調査ではサンプルなど難しい課題があると思う。疫学的調査でなく、放射能を細胞に当てて影響を見るという実験では、生体を必要とするのか？
 - 人の血液を試験管に入れて放射線を当てて、染色体異常を見ることはできる。しかし、がん化は非常に複雑なプロセスがあるので、細胞レベルだけの実験では予測できない。LNT 仮説に代わる定量的なモデルがないのが現状である。

- 避難地域外の学校現場で、校庭で運動をさせない、プールもやめてしまうのは、トータルリスクで考えれば、放射線の影響リスクより、子供たちに害があるのではないか？
 - リスクの受け止めは個人によって違う。私の個人的な感覚では、何時間か子供たちが校庭等で遊ぶというのはそれほど大きなリスクではないと思うが、学校現場や親御さん

の判断が間違っているとか、いないとか言う立場ではない。科学が全てのことに明確な答を出せればいいが、そうではない一つの例だろうと思う。

- 日本原子力研究開発機構の HP にも、海への影響に関するシミュレーションが載っている。
- 福島の子供の尿中からセシウムが検出されたとのニュースが昨日出ていたが、どういう状況にあり、何に注意すれば防げるのか？どの数値だと危険なレベルなのか？
- こういう状況なので少しは体内に入っていることは間違いないと思うが、問題は量がどのくらいなのか、推定がどうなのかを、見なければ分からない。低線量では、どこから安全、どこから危険という考え方は採らずに、線量に応じてリスクの大きさがある。

以 上